

## 53.東日本大震災での医療支援活動による気づきから得た今後の課題

川島美保<sup>1)</sup>、檜垣宏美<sup>2)</sup>、黒岩恵子<sup>2)</sup>、平川大悟<sup>3)</sup>、菅沼成文<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>高知大学教育研究部医療学系看護学部門、<sup>2)</sup>高知大学医学部附属病院薬剤部、

<sup>3)</sup>高知大学医学部附属病院検査部、<sup>4)</sup>高知大学教育研究部医療学系連携医学部門

### 1. 研究の背景と目的

この度、東日本大震災の被災地において、4月上旬に医療チームとして、4日間の災害医療支援活動に参加した。その活動期間中に、日々の活動を通して気づいたことをテーマとして、チーム内ミーティングを行った。その内容の可視化を目的に分析した結果、今後の災害支援活動や対策において、必要とされる課題が明らかとなったため、報告する。

### 2. 方法

1) 対象：医療支援活動チーム5名（医師1名、看護師1名、薬剤師2名、検査技師1名）。医療支援活動内容は、拠点避難所からの各避難所への巡回診療、拠点避難所の調剤を主としたものであった。

2) 期間：2011年4月中の活動日4日間（連日）

3) 方法：活動終了後に「本日の活動を通して気づいたこと」をテーマに、ブレインストーミング法によるミーティングを開催した。4日間のミーティング合計時間は、のべ約10時間であった。ミーティング内容を全て記録化した後に、コード化、カテゴリー化を第3段階まで行い、質的に分析した。

4) 倫理的配慮：本報告内容は施設長及び倫理委員長承認を得た。

### 3. 結果

医療支援活動中のミーティング内容を分析した結果、《医療班の準備性》《被災者の現状とニーズ》《効果的な医療支援活動》《効果的な支援活動のための多面的な協働の必要性》《災害疲労期に求められる支援の課題》《今後の災害対策としての準備性》の6つの大カテゴリー及び30の中カテゴリーが抽出された。

### 4. 考察

《被災者の現状とニーズ》を十分に把握し、《効果的な医療支援活動》を行う、あるいは《災害疲労期に求められる支援の課題》を解決するためにも、《医療班の準備性》と《効果的な支援活動のための多面的な協働の必要性》が重要である。

災害時の医療支援においては、医療チームメンバーそのものが初対面となることや、多くの機関から派遣された医療チームが顔合わせして、そのまま一緒に実務にあたることとなる。その上で、日々流動的な《被災者の現状とニーズ》に対応し、効果的に活動するためには、医療支援チーム内、エリア間、本部、行政との中での情報の統一化、共有化とともに、医療の協働の重要性を再認識した。《今後の災害対策としての準備性》の視点では、行政、自衛隊、民間企業を踏まえたシステムづくりが不可欠である。

### 5. まとめ

今回の気づきをもとに、「準備性の向上」「協働できるシステムづくり」が重要な課題と捉える。具体的には、災害各期におけるニーズ分析と求められる医療・保健活動について、再検討し、マニュアル化が必要である。また、一個人・一組織として災害支援の準備性を高め、情報共有のあり方についても洗練化を図る必要がある。また、マニュアルを基にした医療機関・行政・自衛隊を含めた合同訓

練、災害による被災状況のシミュレーションのもと近隣全県の合同訓練等も視野に入れて活動すべき  
と考える。